



色鮮やかなパンジーを植栽

### 花いっぱいのおもてなし

10月31日 大河ドラマ館おもてなし花壇リニューアル

葦山時代劇場に設置された大河ドラマ館の「おもてなし花壇」のリニューアルを実施しました。この日は、花咲く伊豆の国推進協のメンバーのほか、あゆみ保育園の園児、伊豆の国特別支援学校の生徒、市民有志など約80人が参加。パンジーやピオラ、チューリップの球根などを植栽し、大河ドラマのポスターをイメージした壁面花パネルも設置しました。今回植栽された花々は、春頃まで楽しむことができます。

### 幻想的な竹灯りに包まれる

11月5日・6日 「灯そう2022 江川邸の庭へ」が開催

竹灯りイベント「灯そう2022 江川邸の庭へ」が、江川邸で開催されました。このイベントは、市のパートナーシップ事業の一環として、江川邸竹灯り実行委員会が主催。会場は、飾り灯籠や竹オブジェの展示のほか、葦山高校の生徒によるステージ発表、キッチンカーやハンドメイドの出店も行われました。来場者は、竹に灯る光に、感動の声をあげていました。



灯籠に照らされる庭園



家族連れなどでにぎわう会場

### マルシェとモンゴル文化を楽しむ

11月6日 手作りマーケット vol.5 が開催

手作りマーケット vol.5 が、葦山反射炉ガイダンスセンター前芝生広場で開催されました。手づくり雑貨やキッチンカーによる飲食の販売に、約50団体が出店しました。また、反射炉自然公園では、伊豆の国ふるさと博覧会を開催し、「モンゴル化計画」と題して、伊豆の国うま広場による引き馬体験や、市友好都市交流協会によるゲルの設置なども実施。多くの人が、思い思いにイベントを楽しんでいました。

### 長岡京ガラシャ祭で市をPR

11月12日・13日 市民団が長岡京市を訪問

姉妹都市交流の一環として、伊豆の国市民団が3年ぶりに長岡京市(京都府)を訪問しました。12日には、友好交流会が開催され、歓談のほか、お互いの市の音頭を全員で踊るなど、親交を深めました。13日には長岡京ガラシャ祭の行列巡行(パレード)に参加。あいにくの雨となりましたが、沿道に詰めかけた多くの人に、伊豆の国市をPRしました。



行列巡行の様子



華やかなステージ

### 文化・芸能・芸術の祭典

10月9日・10日 第18回市民文化祭が開催

アクセスかつらぎで第18回伊豆の国市民文化祭を開催しました。4年ぶりの開催となり、芸能部門では歌唱・演奏・舞踊など29団体が、展示部門では美術・工芸・伝統文化など35団体が発表しました。大ホールで行われた芸能部門では、観客が各ステージを拍手で盛り上げて会場の一体感を生み出し、展示部門では、来場者が作品の出展者に説明を受けながら鑑賞を楽しみました。

### 保健や福祉を楽しく学ぶ

10月15日 第18回市民ふれあい広場が開催

第18回市民ふれあい広場を葦山福祉・保健センターで開催しました。市民ふれあい広場は、市内の保健や福祉の団体が多数参加するお祭りで、4年ぶりの開催となり、多くの来場者が訪れました。ステージでは太鼓の演奏や表彰、クイズ大会などが、屋外では各種模擬店が、また館内では歯科検診や食育を学ぶすごろくなどが行われました。来場者は、保健や福祉について見たり、聞いたり、体験したりしながら楽しく学んでいました。



やわら太鼓・どんつくの演奏



完成を喜ぶ関係者

### 市内産ミニトマトを使った発泡酒が完成

10月19日 「政子の情熱」のお披露目式が開催

市内のニューファーマーが生産する「伊豆の国ミニトマト」の規格外品を使ったミニトマトエール「政子の情熱」がお披露目されました。これは市と「よい仕事おこしフェア実行委員会」が包括連携協定を締結したことがきっかけの取り組み。パッケージのデザインは切り絵作家の水口千令さん、商品名は願成就院住職の小崎祥道さんが揮毫しました。市長は「赤みがかかった色とコクに情熱を感じる」と笑顔浮かべていました。

### 火災時の連携を確認

10月23日 消防団が中継訓練を実施

市消防団が、千歳橋近くの狩野川河川敷で中継訓練を実施しました。中継訓練とは、火点から水利が離れていることを想定し、複数のポンプ車を連結して水を放水する訓練で、火災時の連絡・連携を強化するため定期的に行っています。団員は、駿東伊豆消防本部協力のもと、ポンプ車の操作方法の確認などを実施。分からない部分はその都度確認を行うなど、火災時に、速やかに消火活動が行えるよう訓練を行いました。



複数のポンプ車を連結して放水する団員